ブロック名：	千　　歳

新型コロナウイルス感染症の対応について

《養護教諭の実践・支援》

児童生徒の様子（感染症に関わって）	・発熱（37.4～37.5 度）を繰り返すが他症状がないことから検査を受けられない子がいる。心因性発熱や他疾患も視野に入れながら対応している。 ・７月に入ると休校の影響と思われる行き渋りの児童や不定愁訴で頻繁に保健室に来室する児童がいた。 ・子どもたちで密にならないように声掛けをしている様子が見られるが、休み時間になると忘れてしまっている。 ・「どうして外に遊びに行ったらだめなの？」「どうして友達と手をつないだらだめなの？」等、疑問を抱えている様子があった。 ・発熱で数日休むと「コロナにかかった」と発言する児童もいた。 ・時間差で玄関に入れたり、スクールバスで通う子を時差登校させたりして密がさけられるよう対応している。 ・徐々に感染予防に対する意識が低下している様子が見られる。 ・感染症に対して過敏になっている子がいる一方、距離を保てなかったり、マスクを頻繁に忘れる子もいる。 ・マスクを嫌う子がいる。 ・特別支援の児童で不安のため以上に手洗いを続けている児童がいた。 ・不安により長期間欠席が続く児童がいた。 ・市内で陽性者が出ていた時期は、欠席者が数人いた。 ・祖父母と同居している子が多く、うつしてしまう事を心配している。 ・特別支援学校では、学校が休みなのか理解できず毎朝学校へ行く準備をしていた子もいた。 ・臨時休校期間に昼夜逆転の生活をしていたことやゲームのしすぎにより生活リズムが崩れ、学校再開時に不登校ぎみになってしまう子がいた。 ・無力感やあきらめのような言動が見られることがある。 ・人への指摘が多くなっていると感じている。 ・ZOOM 授業とホームページを活用した健康観察を学年ごとに実施した。
児童生徒への指導	・保健だよりや掲示物を使用した啓発。 ・放送機器を使用して感染症予防に関する指導を実施した。 ・ZOOM を使用し、保健指導を行った。 ・三蜜を避ける、水分補給、マスク、手洗い、消毒指導やソーシャルディスタンスを保つよう声掛けをしている。 ・委員会活動で『正しい手の洗い方』のビデオ作成 ・「コロナだ！」と言われ、嫌な思いをした子がいたため指導した。

	・誰もが罹患するかもしれないため、罹患した人への思いやりなど日頃から伝えていく必要がある。校内で発生した際に、差別偏見いじめにつながらないよう日頃から指導しておく。 ・養護教諭が全学年に、コロナについて知ろう、コロナによる偏見や差別をしない、手洗いのしかた、感染症予防について等の保健指導を行った。 ※別途データ参照
家庭・教職員への情報発信	・保健だよりや掲示物、学校だより、学級だより、マチコミメール、ホームページ等による情報発信。 ・布マスクの作り方を保健だよりに掲載 ・職員会議で手洗いや消毒の方法等、指導してほしいことや気が付いたこと、地域のコロナの状況をその都度発信した。 ・最新情報を提供し、授業で使えそうな資料も配布した。 ・新しい生活様式を一覧にし、教職員へ配布 ・健康観察チェックシートの工夫 ・他の感染症にも注意するように（耳下腺炎・水痘等） ※別途データ参照
その他	・水道を手洗いブースとうがいブースに分ける。蛇口を上に向けて口をつけることの無いように、水飲みは水筒、うがいは紙コップを使用する。 ・コロナに対して保護者に温度差がある。 ・毎朝の健康チェックや校内の消毒、教科指導の注意事項など教員間で温度差があると対応に差が出てくるので、教職員間でコロナ対策について共通認識をはかっている。 ・保健室前に感染症防止やストレスを軽減させるストレッチ法などを掲示。

《各校の現状》

校内の消毒方法	・次亜塩素酸ナトリウム ・次亜塩素酸水 ・エタノール消毒液 ・アルコール ・界面活性剤（かんたんマイペット、ケミガード） ・共通で使用する部分はアルコール、机や椅子は次亜塩素酸水（8 月以降は市からの配布がなくなるためアルコール）を使用 ・トイレや階段、玄関は養護教諭（+担外、+業務技師さん）、各教室は担任 ・ヘルパーさんが教室の消毒をしてくれる。曜日を決め、体育館や特別教室の消毒をヘルパーさんと教職員で行っている。 ・特別区域は使用した学年学級が消毒。 ・特別区域は担外が消毒。 ・特別区域は担任が輪番で消毒し、体育館の用具は養護教諭と事務職員、職員室は業務主事が行っている。 ・ボールを中休み昼休み放課後に消毒。

	・各教室や学年が使用しているトイレは担任が消毒。 ・月～木は次亜塩素酸水、金はアルコール消毒を一斉に行う。 ・貸し出しした図書は司書さんが消毒。 ・玄関、水道、手すりなどは１日２～３回校内を回って養護教諭が消毒。 ・最終は、教頭が校内の施錠確認の際に消毒しながら回る。
清掃活動の対応	・通常清掃（トイレ以外） ・教室のみ通常清掃、特別区域清掃なし。 ・児童による清掃活動中止。（給食後清掃は学級裁量でできる学級は清掃実施、児童による清掃ができなかった学級は担任が消毒前清掃を実施。） ・特別教室、玄関など清掃割り当てのない区域は清掃担当指導教員・保体部担当教員が行うこととしている。 ・学校再開後は清掃なしや教職員で清掃、簡単清掃等で対応していたが、段階的に通常清掃に戻している。 ・①掃き清掃：自分の机は自分で運ぶ or 椅子を机の上にあげて、机は動かさずに掃き清掃のみ行う。 ②拭き清掃：バケツの使用はせず、雑巾は教室の水道で直接濡らしてしぼる。机や椅子を拭く場合は自分の場所のみ。棚や黒板など共有の場所の拭き掃除は行わない。床拭きはクラスに 1 本用意した水モップで行う。 ・昼清掃から放課後清掃に変更し、密を避けるため当番のみ残る。 ・清掃前後は必ず手洗いをさせる。 ・清掃用具は貸し借りしない。 ・清掃後に教員で使用した清掃用具を消毒。
給食の対応	・給食前は必ず手洗い。 ・給食当番は配膳前に健康観察（給食センターよりシートあり）。 ・配膳時には使い捨て手袋（給食センターより支給）の着用。 ・盛り付けは教員で行う。 ・配膳は配膳員さんが行ってくれるので通常通り。配膳室に取りに行く際には人との間隔を取るようにしている。 ・全員の机を水拭き。 ・机の上には、ティッシュ・ハンカチ・マスクケースを用意。 ・咳エチケット用のペーパータオルを用意。 ・トレイを毎日消毒。 ・トレイにランチョンマット（忘れた場合は A3 用紙）を敷く。 ・トレイ回収が週１回のためトレイを使用せず、机に持参のランチョンマットを敷いて対応。 ・箸の貸し出しを行っていたが中止し、忘れた場合には割りばしで対応。 ・配膳中や食事中は私語禁止。 ・席はグループにせず全員前を向いたまま。 ・食べ始まる前に、量の増減はしない。

	・配膳、片付けは一方通行で、基本自分の食べるものは自分以外触れない。 ・おかわりは静かに手をあげて担任が回って行う。 ※別途データ参照
健康観察シートの対応	・道教委作成のものを配布。 ・道教委のものを学校で活用しやすいように様式を変えた。 ・自校で作成した体温チェックカードうぃ登校時に持参。 ・オリジナル手帳を１人１冊持っているため、毎朝、手帳に検温結果を記入し、朝読書の時間に担任がチェックしている。 ・登校可能チェック欄、家族の健康状態の欄を設けている。 ・健康観察チェックが心的負担になる生徒と保護者がおり、相談されたため、個別対応した。（保護者が家で必ず検温して登校可能か判断） ・登校時体温チェックカードを作成しネームプレートに入れ首から下げて登校（朝、玄関で教員がすぐに確認できるようにするため） ・４月～６月は玄関前でチェック。７月からは教室。 ・毎日朝の体温を担任がチェックしている。何日も忘れた場合は家庭に連絡をする。 ・朝読書の時間帯に担任がチェック。検温していない場合は各学年廊下で副担任が検温。風邪症状や微熱があった場合は保健室で問診し、管理職と対応検討している。 ・朝検温してこなかった児童は教室入室前に保健室で検温。 ・健康観察シートの提出を一時は任意にしたが、体温を測り忘れる児童が増えたため、朝必ず提出することにした。 ・シートは期間終了後回収しているが提出しない家庭もある。
保健室来室者の対応	・保健室は具合が悪い児童が使用し、けがの場合は廊下に衝立等で仕切って対応している。 ・不調休養児童いない時は保健室内で手当てやメンタル児童受け入れ。 ・まずは職員室で体調不良者とその他に振り分ける。フローチャート作成。 ・内科対応時は保健室に１名しか入れない。休養が必要な場合は早退。 ・体調不良者は廊下で検温してから保健室へ入る。発熱児童は別室対応。 ・保健室入り口で問診→手前の処置台で外科的症状の手当て、中央のソファーで内科的症状の手当てをする。 ・基本的には普段と変わらず 37.5℃以上で早退。37℃以上 37.5℃以下の場合は保健室のソファーで休ませる。 ・微熱でもなるべく早退の対応。 ・具合の悪い児童はなるべく長居させない。 ・体調不良を訴える生徒は原則早退とし、熱や咳などの症状がある場合は保護者が迎えに来るまで別室対応とした。 ・休養が必要な場合は消毒可能なソファーで布団もすぐに洗濯できるタオルケットやバスタオルのみ使用。 ・７月後半からベットにレジャーマットを敷いて使用し、使用後はすぐに

	消毒する。 ・頻繁に消毒する。
熱中症対策	・教室の温度を測る。 ・黒球付熱中症計を購入。 ・熱中症の掲示物（WBGT 数値）を確認する。 ・予想最高気温を日報や掲示物として周知する。 ・外気温が 25℃以上で休み時間に注意喚起の放送。外気温 28℃以上で屋外での活動は基本中止。教室環境が悪い場合は廊下等に分散して休養させる。 ・保健室は冷風扇を設置する。 ・保健室にクーラー設置。 ・休校中に PTA 予算で教室、特別教室、保健室に扇風機設置。 ・教室にすだれ設置。 ・冷却タオル、うちわや扇子の持参を可にする。 ・冷感ミストや汗拭きシートなどの化学物質や香料の入ったもの、小型扇風機は使用しない。 ・水筒持参（水、麦茶、スポーツドリンク）で水分補給。 ・授業中も適宜、水分補給させる。 ・OS1 を多めに購入。 ・「会話をしない時間」は、担任の指示によりマスクを外してもよい。 ・体育や外遊び時はマスクを外してもよい。
教育委員会の対応 （必要物品の配布等）	・水飲み場のレバー交換（手で捻るタイプ→腕で動かせるタイプ） ・アルコール消毒液、エタノール、次亜塩素酸水、給食配膳用の使い捨て手袋、使い捨てマスクの配布 ・サーモグラフィーカメラと三脚の設置 ・各教室２台扇風機の設置
その他	・日課の変更（手洗い・給食準備時間の確保） ・視聴覚室、理科室、職員室にパーテーション設置。 ・マスクの貸し出し ・PTA 会計より予算をいただき、物品購入をした。 ・健康観察シート提出しませんと連絡帳等で記載してきた保護者あり。学校は毎日の検温と健康チェックをお願いするしかできない。 ・熱中症対策、冬場の手洗いなど消毒以外にも必要消耗品が状況や季節に応じて出てくると思う。 ・部活動の対外試合が解禁されたこともあり、各部活動に持ち出し用の消毒液を配布した。 ・換気の実施。 ・給食準備時の手洗いは、分散するように特別区域を開放してクラスごとに指定して密を避ける。 ・玄関前に足型を書き、登校の際はアラームを鳴らし１０秒間隔で玄関に入る。

《今、困っていることや交流したいこと》

・消毒、コロナ対策おすすめグッズがあれば知りたい。
・コロナの対応は、誰が主となって行っていますか？（本校では健康観察シートの配布も給食指導も消毒も熱中症対策もすべて養護教諭が行っている）
・健康観察シート回収、回収後の取り扱い（学校回収保管している学校どの程度あるのでしょうか。）
・密をさけるように指導、環境を整えてはいるが、生徒の人数も多く、空き教室や水道も限られており、密を避けるのが難しい状況である。
・気温が高い日の外の体育の時など、マスクを外すよう指導しても、なかなか外そうとしない。
・マスクをしているとかなり暑いので熱中症が心配。
・マスクをハムハム加えて、予備のマスクに取り換えてもきりがない子がいる。余計に感染のリスクがありそうで困っている。
・休み時間、ほかの児童が使った道具は消毒しないと使えない、という児童が多い。
・何をどこまでやればよいのかあいまいで不安。対策を緩和したら、何か基準を設けている学校はあるのか。
・今後、宿泊行事が予定されているが、どんなところに気をつけて行えばよいか。
・保健室への来室を制限しており、自由な来室ができない。今までのようにフラッと来室することができない状況で、子どもたちの健康観察や相談活動をどのように行っているか知りたい。
・熱があって別の部屋で待機させたとして、その子をひとりにはさせられない。人も足りていないので、現状保健室で対応するしかありません。
・サーモカメラがきたが、カメラを見ている人が一人必要なので使えません。
・現状を考えると仕方ないが、予定が二転三転すること、上からの指示が遅いことが困る。また、現場判断・現場任せだと経験の浅い先生は困ることが多いと思う。局や市町村で統一したもので指示してもらいたい。